

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

朝来市長 藤 岡 勇

市町村名 (市町村コード)	朝来市 (282251)	
地域名 (地域内農業集落名)	朝来市山東町粟鹿地域 (和賀区)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年2月23日 (第7回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・区域内の農地は、ほぼ圃場整備済であり、委託管理農地が多いが、自作農業者だけでなく、受託農業者も後継者問題を抱えているように思う。また受託農業者の多くが、区域外であることも地域としての一体感や自立意識を損ねて将来の在り方を考えにくくしているものと考えられる。
- ・自作農地周辺の草刈り等の環境整備ある程度できているが、委託農地の周辺の環境整備はできていない状況にある農地も散見される。
- ・水路の経年劣化での灌漑の困難さから、一部地域では農業離れに拍車をかけている側面もある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・30ha未満の農地に受託農業者が管理する多くの農地があることから将来に向けて効率化を図るためには、受託者同士の話し合いによる調整も必要である。
- ・農業の楽しさや意義を感じられるような仕組を地域を挙げて連携しながら作り上げることも重要と考える。
- ・個人農業者の中にもコウノトリ米や朝倉山椒等の高付加価値の産物を生産している事例もあり、地域の中でもっと交流を深めてそれらの産物を産地化していけば、農作業や流通の効率化が図れると考える。
- ・個人農業者の一定の役割をもつ農業の担い手であるが、彼らの余剰産物を非農業者に還流する仕組みを作れば、より地域としての一体感の醸成を図れるのではないかと考える。
- ・経済的に成立する農地は、できるだけ早いうちに所有権を移転することも今後の農地管理や農地集約が難しくなり、また相続人の分散による弊害も抑えることができると考える。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	30.64 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	25.66 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

地区内及び粟鹿地域の農地利用状況を踏まえ今後も農地管理を継続していく農地を中心に区域を設定した。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地所有者の連携を進め、一体感を持って農地や作業の集約化を進める。 合意が得られた場合は、再基盤整備の方向へ舵を切り農地の集積、集団化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構の利用も図りながら、できる限り現状の区民や近隣農業者で地域の農地と農業を維持していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
圃場の大規模化や水路の整備等、将来に向けて基盤整備は必須であり、農地所有者、近隣区及び行政とも連携、協力をしていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
区内農業者の集約を図るとともに新規就農者との意見、情報交換をしながら連携を深めていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
豊富な知識とノウハウを有しているJAとの連携を密にして時にアドバイスを頂きながら農業経営の安定基盤を築く。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①鹿・イノシシの被害対策として、侵入防止柵の設置等を継続して行う。
 ②コウノトリ米の栽培やレンゲの栽培にて無農薬・減農薬を目指す。
 ⑧大規模化に合わせた施設の新設を目指す。